

案し、子供から老人まで積極的に利用できるように努めている。

また昭和五六年には二ツ屋、大屋敷の両地区で住民の要望に応じて施設が竣工した。

第六章 宗 教

第一節 神社と寺院

概 況

昔から人々は素朴な生活の中でその精神生活の支えとして、神社・寺院を信仰して、正月や豊年祭りに
は氏神様へ参拝し、盆やお彼岸にはお寺へ参詣することが習わしとなっていた。

明治時代になって、国は神社・神道中心の施策をとり入れ、神社は超宗教的な制度(国家管理)に基づいて管理を強
めていった。大正時代を経て昭和に入るや、台頭した軍国主義のもと制度が一層強化され、神社はすべて国の施策に
そつて、軍国主義の一翼をにない八紘一宇の理想のもと、大戦へ突入した。

昭和二〇年の終戦は、こうした流れに大きな変化をあたえ、宗教界は激しく混乱したが、新憲法の公布により、信
教の自由が保障されたことよつて人々は落着きをとりもどした。

まず、神社は国家統制から完全にはなれた。これは昭和二〇年一二月の連合国軍の指令に基づいて行われたもの
で、歴史上の大きな変革であり、これに対応して宗教法人令が定められた。

仏教は、明治政府の政教分離の政策によつて国家権力からはなれ、それぞれの宗教は教えを広めるように心がけ、
信徒の増加を図つてきたが、国家管理下にあつた神社と同じように、戦争の激化が著しくなつた昭和年代に入つて、

政教分離の本質はうすれ、思想の統一がはかられるようになり、仏教も国策にそって皇室崇拜、鎮護国家の精神に移行し、太平洋戦争の頃には仏教本来の活動は渉り、武運長久の祈願、戦没者の慰霊に力を注いだ。

各寺院の梵鐘や一般家庭の仏具を、戦争資材用として供出したのもこの時期であった。

こうして神社・寺院すべてが軍国主義にかりたてられたのち迎えたのが敗戦であり、天佑神助を信じひたすら勝利を祈ってきた人々は、大きなショックを受け、神社・寺院への信仰心は低下し、人々の多くは一時、虚脱状態になったが、戦後の復興、民主化の訪れとともに、神社崇敬の心、仏教信仰心は早くも復活し、昭和四〇年代には経済の成長とともに生活も豊かになるにつれ、町内の多くの神社・寺院で境域の整備、建物の修復が、地区民あるいは檀徒の浄財によってさかんに行われた。

また仏壇・仏具などを新調する家も増え、仏教本来の教化活動も町内では活発に行われている。

神 社 往古より早く拓けたこの地内には、多くの神社が創立され村人の敬神の念は非常に厚かったと思われる。

延喜五年（九二七）に撰上された「延喜式神名帳」には、すでに「小口神社」がしるされ、式内社として後世に伝えられ、また尾張本国帳には「從三位小口天神稻置庄在二小口村一」と、「奈良子天神」が記載され、町内で現存する神社のなかでもっとも古い神社と考えられる。

明治の初期には町内に二八社（豊田三、大屋敷五、秋田八、小口九、河北一、外坪一）があり、それぞれ尊厳を保っていたが、明治三〇年代にはいつて神社の合祀、廃社などが広く実施され、かなりの神社が整理された。

ことに明治三九年神社に関する勅令が發布されるに至って、神社の整理がさらに進んだ。

昭和一〇年に発行された村誌の記載によれば、当時村内には郷社一、村社一六、無格社五、計二二社があり、それ

ぞれ氏子のあつい崇敬心により、神社の種々な建物の造改築がなされ、その尊厳はますます増大している。祭神別に見ると伊勢神宮の天照大神を勧請した神明社が多く、ついで加賀白山を仰ぐ地に発生した白山信仰、祭神の応神天皇と結びつけられる八幡信仰、牛頭天王ウシコウを祭神とする津島社、紀伊熊野に発する熊野社、信州諏訪明神を勧請する諏訪社などが鎮座されている。

今日では、一九社が町内に祀られている。

一方、明治四年に制定され、昭和二〇年に廃止された神社の社格については、その神社の沿革、創建年代、財産などを基準に決定されたようである。前記の郷社は長桜の天神社であり、古い記録によれば明治五年にその社格が定められている。(長桜、鈴木嘉一郎氏所蔵のもの。)また村社は概ね大字ごとに一社ずつ祀られていたようであるが、大字によっては二、三社のところもあり、無格社と併せて四社あるいは五社が祀られている大字がある。これは起源の古い部落、往昔の部落単位などに因ると考えられるが、いずれにしろ従来から村人の信仰の対象として、崇拝されて来たのである。

すなわち太古より村人は神社(産土神)を中心に、共同生活を営み、部落の発展に努力してきた。したがって神社の所在は村人の在住を示し、また古書によれば新田開発によつてその地に神社が勧請されたことも多く見受けられる。こうして町内では、今から約一、〇〇〇年以前に建立され、多くの村人によつて崇拝されていた、前記の「小口天神、奈良志天神」はいずれも、この地域開発の中心として大きな役割を果たしたことであろう。

農耕を主体に、素朴な日常生活を営んできた私達の祖先が、作物の豊穰を祈り、氏神を中心に地域の平穩無事を求めつづけてきたのである。



図3-158 大口神社(大屋敷地内)

中世以降になると、交通の便がしだいに緩和され全国的な現象として伊勢神宮、熊野社、白山社、諏訪社など、遠くの地まで参詣に出掛ける風習が起り、これらの御神体の分身を村へ勧請し崇敬したのも町内には数多くみられる。

氏子の組織はもともあつたろうが、社格の決定により神社とその組織との結びつきはさらに強くなつた。そして昭和二〇年の敗戦とともに神道日本は急変し、氏子組織や住民の考え方も大きく変化したが、その結びつきは今日もつづけられ、多くの祭祀が年々盛大に行われている。

大口神社は昭和二七年八月に建立され、校町の出身者で明治以降今まで、幾多の戦役で尊い生命を失つた人々が祭神として祀られ(現在三二六柱)毎年一月にはみたま祭がおごそかに執行されている。

つぎに各神社で行われる祭事は、元旦祭、天王祭(夏祭)、秋祭などが主なもので、各部落とも大体同じようであるが、長桜天神社に残る秋祭(秋の豊年祭)に行われる神事「湯の花」はこの地方ではめずらしく、本町の文化財として保存され今日でも昔の形通りに行われている。

また秋祭には古くは、どの氏神も飾馬やしし舞いなど青年会が中心になつて、活発に行われてきたが近年になり青年会(青年団)の組織の消滅とともに、子どもの祭りになつてきた部落が多い。祭礼の日は昔は各神社別々のよう

で、明治のはじめには旧暦の八月一九日行われた部落もあったが、その後農作業などの関係で新暦の一〇月五日が一五日となり、昭和一〇年ごろには一〇月二〇日に大部分が祭礼を行ったが、余野、竹田、南部地区は二五日、二七日であった。

戦後になって農作業形態の変化や生活慣習の相違により祭礼日が移行し、今日では各部落とも一〇月一五日に近い日曜日と定めている。

各家では前日よりすしをつけ、赤飯をたき、そのほか多くの御馳走をつくり、親戚や知人を接待しお祝いをしたものであるが、今日ではこのような催しをする家も少なくなつたように見受けられる。

《町内所在神社の沿革》

天神社	神社名	祭神	創建年代	所在地	その他
天神七代			不詳	秋田字宮前一九	旧郷社



図3-159 天神社 (長桜)

由緒

○尾張志に「奈良志ノ社」長桜

村郷家の西にありて天神と称す本国帳に丹羽ノ郡從三位奈良志ノ天神とある是なり。

○大口村誌には、往古奈良の落人、小森山象この地に神靈を負い来てこの村を拓いた。ついでここに社を創て天神七代を祀った。その後この宮は一

二か村の共有するところとなつた。すなわち長桜村、替地

新田、宗雲新田、八佐工門新田、御供所村、三右工門新田、田、伝右工門新田、外坪村、大屋敷村、安良村、御供所村、三右工門新田、九郎右工門新田、小折新田の一二か村である。

一説に、この天神、もとは御供所村奈良子の本居神であつた。故あつて長桜村の本居神となつたと伝えられるが、詳細を示す資料がない。いずれにし

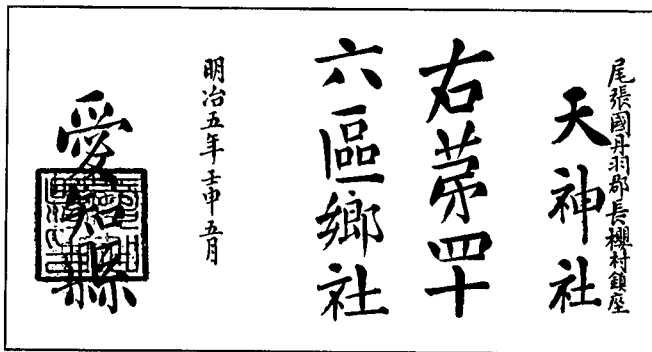


図3-160 「郷社」天神社 (鈴木嘉一郎氏所藏)

ろこの天神社が町内唯一の郷社としての社格を有していたことは、沿革、創建年代など明確なものがあつたと考えられる。大正八年一二月春日社併祀の記録がある。

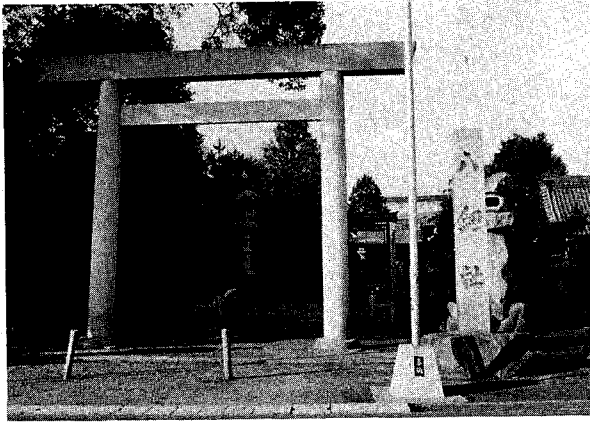


図3-161 八 劍 社 (豊田)

八 劍 社	神 社 名	祭 神	創 建 年 代	所 在 地	そ の 他
日本武尊他			不 詳	豊田字堀尾跡四四	

往古、土地の豪族であつた堀尾一族が守護神として、祀つたものであり堀尾家滅亡後は現在の氏子が、これを受けつぎ氏神として尊敬している。

沿革

当社にある棟札によつて大要を記すと、つぎのようである。

この社は、西暦一三八三年南北朝時代(弘和・永徳年代)以来、天正、慶長、寛永年中までは堀尾帯刀寄進して再建した。

「棟札」

八劍大明神棟札

一、以奉再建八劍宮社頭一字右趣意者堀尾帯刀左衛門進

武運長久子孫繁昌並当村安全諸人満足之所

千時天正□年己丑六月一二日願主堀尾帯刀敬白

右の棟札のほか慶長、宝永、延宝年間など再建の棟札が多く保存されているが、当社開闢を示すと思われるものはない。

また大福田社は、土田弥十郎が創立したものであり、いまの地に転じ、村人の増加とともにこの社を信仰していたが、のち氏神として祀ることとなった。記録に慶安五年三月再建とある。



図3-162 神 福 社(小折新田)

由緒
大正六年四月大福田社
へ神明社を合併して神福
社と改称した。
神明社はもと小折村か
ら移転して来た社本増左
工門が、小折八龍社から
別社して来たもので、元
禄元年再建といわれる。

神 福 社	神 社 名	祭 神	創 建 年 代	所 在 地	そ の 他
	天照大神他		不 詳	豊田字福田六五	



図3-163 天 神 社 (替地)

神社名	祭 神	創立年代	所在地	その他
天神社	菅原道真	天保一四年	秋田字東郷前一	

由緒

天神社の東側に現存する替地釈迦堂の開基定穩尼が、京都北野神社の分身を勧請して氏神とした。

神社名	祭 神	創立年代	所在地	その他
熊野社	伊邪那美命	不詳	秋田字中山五九	

由緒

と創立年代は詳かでないが、寛文二年（一六六二）のころ、宗雲（早雲とも）という僧が諸国を行脚中この地へ来て、この附近に住まい社の荒廃したのを修理し、またこの辺りの土地を開発したと伝えられている。

神社名	祭 神	創立年代	所在地	その他
八王子社	天之忍穗耳命	元和九年	秋田字郷裏六八	

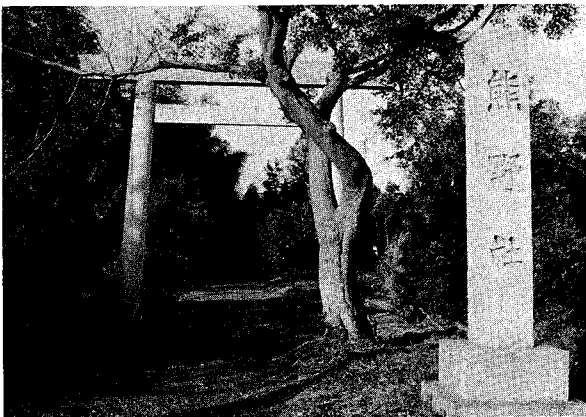


図3-164 熊野社 (宗雲)

由緒

往昔、元和のころ安良（江南市大字安良）に佐藤伝右エ門という人があつて、日頃は己が氏神八王子社を崇め祭っていた。

この人、元和九年亥三月二五日、現在の大字秋田字郷裏に移り、居を構え、この辺りの荒地を拓き、同年四月、神社を勧請し旧里安良村八王子社の祭神、八王子の神を移し祀つて氏神とした。

これが伝右の産土神八王子社創立である。

神社名	祭神	創立年代	所在地	その他
諏訪社	建御名方命	天文八年	大屋敷字高橋九七	

由緒（古記録写）

夫当社由来一卷之書有之所ニ宮土喜左エ門、小左エ門代々当身体衰乱ト成民家二下リ右諏訪勸処物モ朽失スルニヨツテ代々祖父ニ口伝仕ル所此度社門へ奉納シ爲万世アラく爰ニ書記者也。

元文二年丁巳之中秋

折敬白古ニ信州ニ諏訪五郎時茂末弟二同三郎時定兄弟官軍ニ与シ上洛シテ不レ達ニ本望ヲ一廢軍トナリ劇兄弟致不和、五郎ハ本国ニ歸リ、三郎ハ此所ニ留リ明暮鷹ヲ愛シ狩遊ニ志シテ年月ヲ送り住居ス、則此里名鷹狩ト云フ夫ヨリ三代目ニ当リ同時儀者神道專ニ修業ス其頃人皇百六代帝後奈良院天文年中ニ承リ、靈夢依之諏訪明神ヲ勸請仕到リ其時ニ家名宮土ト改ル。中略……則此カ里之文字モ改替高橋ト云フ。以下略……



図3-165 八王子社（伝右）

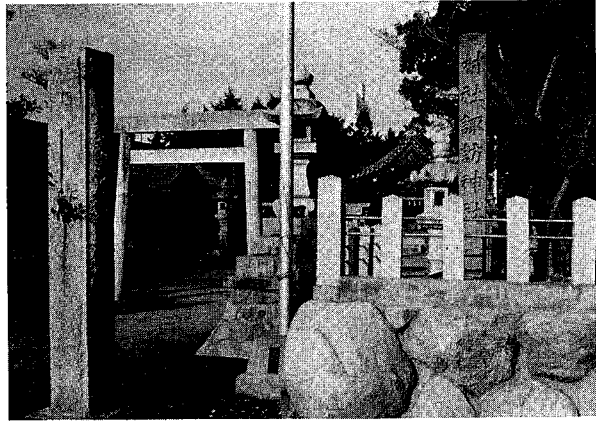


図3-166 諏訪神社(大屋数字高橋)

なお、この古記録の中には……

元禄八年亥之年より当村長松寺支配となるとあり、また享保四年亥四月、燈明火にて社焼き宝物も失い、同年六月長松寺より、小社の建立があつたとして書かれている。

また元文二年になり社が零落したため、この村の小左エ門、市郎右エ門の子平兵衛、市郎エ門が施主となり、社を建立したとある。

神明社	祭神	創立年代	所在地	その他
日本武尊他		不詳	大屋数字八ツ面八四	

由緒

尾張御行記には、この社寛文二二年正月勸請なりとあり、また長松寺書上にも同様にして書かれている。

とされるが現存しない。現存する寛文二二年の棟札には、つぎのように書かれている。

(表)

一切日皆善 一切宿皆賢 諸仏皆感徳
 奉遷宮真清田大明神社頭安總郷内豊饒祈念

羅漢皆断漏 以此誠実言 願我常吉祥

(裏)

南無堅牢地神与諸眷属
南無五帝龍王侍者眷属

寛文十二年壬子念正月吉日
大工丹羽郡大赤見村王越孫兵衛守家
願主稻木庄丹羽郡大屋敷村之内

丹羽覚内、同三九郎、三輪九郎兵衛
導師 丹羽郡赤童子村

長幡寺良山
惣急如律令施主 丹羽太郎作

なお、ここには縣神社が合祀されていたが昭和二八年同地内、県の地へ移し祀られている。創立年代、由緒ははっきりしない。

神社名	祭神	創立年代	所在地	その他
余野神社	天照大神他	不詳	余野字西浦二三一	

由緒

元村社神明社及び八幡社は、いずれも創立年代は不詳であるが、神明社は慶長二年正月、八幡社は文禄五年にいずれも中嶋左兵衛尉によって再建されたと記録され、神社宝物中の青銅鐔口(町指定文化財)の銘に、

「奉納神明大菩薩寄進之慶長二年丁酉正月吉日中嶋左兵衛尉」

この裏に「延喜式曰立野神社是也」とある。(立野神社については未だ確かな考證はない)



図3-167 大明神社 (大屋敷)

また一個には、「謹奉掛八幡大菩薩慶長二年丁酉正月吉日中嶋左兵衛尉」とある。

この神社は、大正六年七月神明社、八幡社が合併された折、村社余野神社と改称され、それ以前明治四一年に熊野社、諸纏社、須佐之男社が神明社に、愛宕社が八幡社に、また明治四二年には垣田社がそれぞれ合併、合祀されている。

棟札 ○神明社

慶長丁酉年

社僧 小林山戒藏坊

奉再興天照大神宮御社頭一字尾張丹羽郡稻木庄与野村

坊

當社建立壇那中島左兵衛尉

禰宜 碁右衛門

弥 三

五月三日

また、合併以前の神明社の棟札に、右のようにしるされ、この社の沿革を知ろうえに貴重とされ、このほかにも多数の棟札がのこっている。なおこの神社に所蔵される宝物として、前記の鏝口のほか狛犬二個があり、これは県指定文化財となっていて全国的にも数少なく貴重なものとされている。

白山神社	菊理姫命他	不詳	小口字仁所野六一	
神社名	祭神	創立年代	所在地	その他

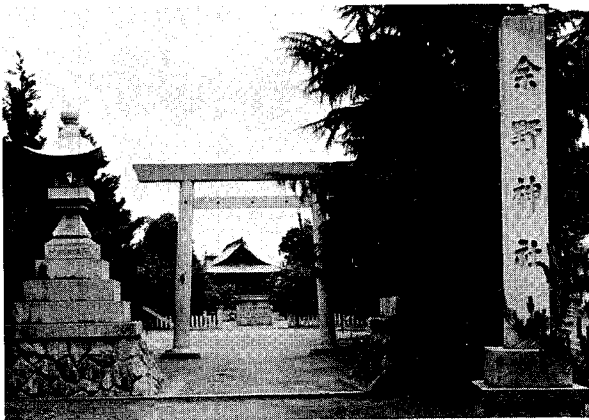


図3-168 余野神社 (余野)

由緒

昔時、大久地城主織田遠江守広近公が、この社を崇敬されたと伝えられている。

明治四二年、小口字仁所野五五番地、愛宕社、小口字下五明九二番地、天神社を白山社に合祀された記録がある。またこの社の境域には古墳があり、白山古墳群として町指定文化財となっている。

この神社には多くの棟札があり、創立がかなり古いと考えられる。棟札に

(表) 貞享元甲子年 社使権大僧都清学院

奉建立白山妙理大権現村中氏子安全延命祈

秋八月一三日 工匠大山安保半兵衛藤原実次

本願人 酒井五郎兵衛

安藤甚五兵衛

(裏)

神鏡二面、酒井與三兵衛同一面、安藤長松同姉女

金箔鬼板、江口小助 釘隠 田中兵六、清八

打釘、田中善三郎、江口八助、權十郎、孫助

金具酒井新十郎、安藤弥兵衛、弥七郎、次郎七

中大久地 大塚伊左エ門、子供



図3-169 白山神社 (下小口)

小口神社	天照大神他	不詳	小口字城屋敷一	
神社名	祭 神	創立年代	所 在 地	そ の 他

由緒

延喜式神明帳に「小口神社」と、また本國帳には「從三位小口神社天神稻置庄小口村」とあり、古くは小口天神と称して崇敬していた。

大正五年五月、小口字宮之前二番地、神明社および境内神社の八幡社、須賀社、神明社の四社を合祀した。

この社の宝物に「鑿一個(雷除の鑿という)」があり、南鑿鐵造りで円形回り約一尺二寸五分といわれる。

「鑿」の由来。

往古大久地村城主織田広近公、本城城中御能間に織田氏伝来の鑿を安置せられ、長享二戊申年足利七代將軍義政の長子、從一位源義熙公のために同城が落された時、同城にある鑿を岩村の城主の臣、近藤訓秀の二男蔓治が持出し、家宝として所蔵するうちに、不思議なことが続続と起こったので、天正一五年これを小口神社に奉獻し



図3-170 小口神社(中小口)

以来、式内小口神社の宝物として納置するものといわれる。(文中岩村とあるは現岐阜県恵那郡岩村町である)

神明社	天照大神	不詳	河北字郷中六六	
神社名	祭神	創立年代	所在地	その他

由緒

この神社の古い明細帳によると「羽黒村禰宜宮地備前正藤原家隆、文化三年寅六月河北庄屋七左エ門写」とあり、また現存する燈籠にも天明年間に奉獻されたものがあり、この社はこれによつて同年間かあるいはそれ以前の創立ということになるう。

一方、古老のいい伝えるところによると「この部落の墓地の碑を見るに、明暦年間のものもがもつとも古く、おそらくこの神社の創立も、明暦年間以前でないか」と。

なお現存する境内の建造物はすべて、明治元年の入鹿切れ以後のものである。

白山社	菊理姫命	不詳	小口字水戸五八	
神社名	祭神	創立年代	所在地	その他

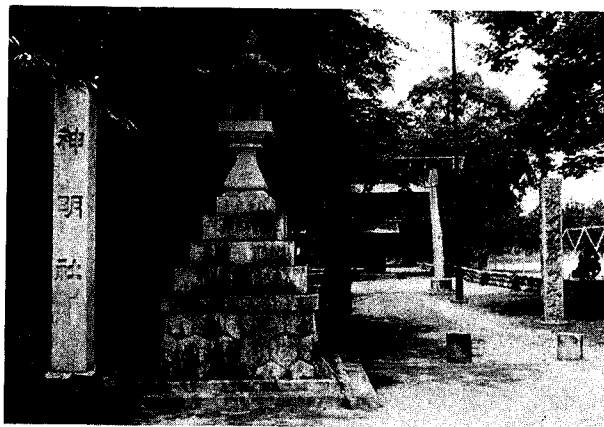


図3-171 神明社(河北)

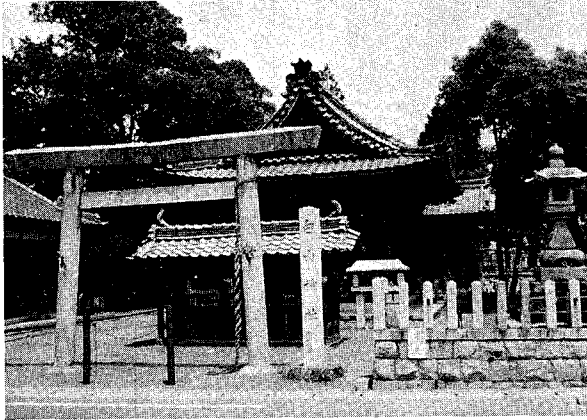


図3-172 白山神社 (上小口)

由緒

創立年代は不詳であるが、古くから現在地に鎮座されていたといわれ、昔大久地城主織田広近公が小口神社とともに、この神社を深く崇敬していたと伝えられている。なおこの神社に伝わる伝説に、昔は上小口部落も左義長を行っていたが、ある年その火が拝殿に移りこれを焼失した。

その後、部落では祭神が花火、竹などのはぜる音を嫌われるとして左義長を行わない。しかしこれも昭和五三年頃より再開されている。

清島神社	品陀和気命他	不詳	小口字島内一六〇	その他
神社名	祭神	創立年代	所在地	

由緒

元村社八幡社(小口字清水五四、鎮座)と三明社(小口字島内一六〇、鎮座)を、明治四二年六月合併、清島神社と改称された。

神明社	天照大神	不詳	河北字二ツ屋二二二二	その他
神社名	祭神	創立年代	所在地	

創立年代、由緒いずれも不詳であるが数多くの棟札が保存され、境内

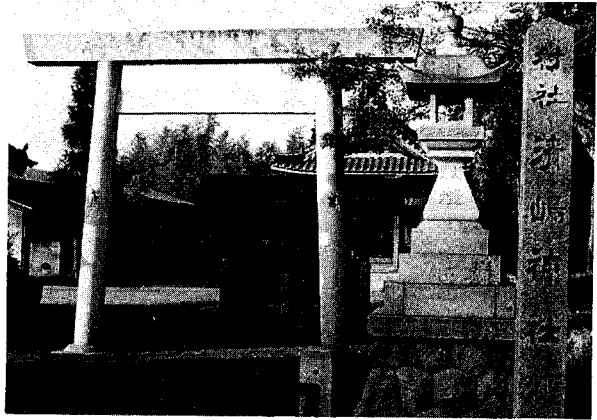


図3-173 清嶋神社(萩島)

由緒

創立年代は不詳であるが、伝えによると仁寿元年再建といわれ、これ以前の創立である。

境内には、稻荷社、知立社、津島社、国府社などが合祀されている。

なお、この神社では明治のころ「笹踊」が奉納されていた。古老の話しによれば、この神は四ツ足の動物を嫌われ

には津島社、大縣社、琴平社が合祀されている。
棟札に、

延享二歳

一、伊邪冊尊神明宮惣氏子奉遷宮

乙丑卯月吉日 宮地数馬

安永六丁酉年 神主 宮地河内藤原家信

一、宮奉新再造神明宮鎮座村中

正月吉曜日 丹羽郡橋爪 田中都嘉

若一王子宮神職恵

菅原吉栄

神明社	神社名	祭神	創立年代	所在地	その他
	天照大神他	不詳	外坪字宮前三四一		

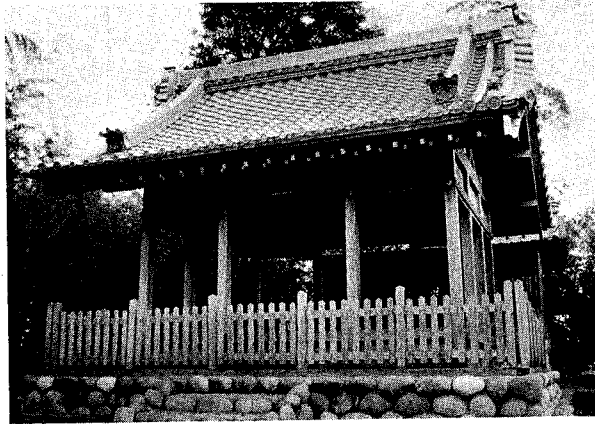


図3-174 神明社(二ツ屋)

るので、かざり馬や獅子の奉納の代りにこの踊りが行われたというこ
とであるが、今日では行われていない。

また古くは、この神社に参拝し妊婦が、玉垣内のお砂を持ち帰りお守り
にすると安産すると伝えられ、永い間この風習がつづいたようである。

神明社	祭神	創立年代	所在地	その他
天照大神他	慶長四・五年	大屋敷字坂小淵二五		

由緒

この神社の創立については、この部落の丹羽範治十代の祖三九郎およ
び三輪悦次郎の祖九郎兵衛が、慶長四、五年ごろ創立したと伝えられ、
貞享五年五月再建の棟札がある。

神明社	祭神	創立年代	所在地	その他
天照大神	不詳	秋田字宮東八六		

この神社は往昔兵火にあつたため、勧請年代は不詳である。この部落の鈴木一族一〇戸の産土神として崇敬されて
きたと伝えられるが、今日では長桜の人々が護り神として崇敬している。

第1節 神社と寺院

棟札に、正徳五年九月再建とあり、これ以前の創立である。

(表)

大行事帝釋天王 聖主天井天 伽陵頻伽声 正徳五未年 鈴木喜太郎 敬
 奉再造宮天照皇大神宮社一字一家子孫繁昌如意処

小行事四大天王 宸悠衆生故 九月廿二日 鈴木次兵衛 白
 我等命敬礼 茂左エ門

(裏)

富士村長成山大蔵院義舟 鈴木氏造宮之
 遷宮之導師修法加持

神社名	祭神	創立年代	所在地	その他
金刀比羅社	大国主命	不詳	秋田字替地一	

創立の年代は詳かでないが、豊田字笹田(笹折か)の土田弥十郎の勧請によると伝えられている。明治の初期に村人がこれを受け崇敬し、現在では秋田一円におよび深く崇敬されている。



図3-175 神明社(大屋敷新田)

津島社	須佐之男命	不詳	河北字柿野一六〇〇	明治一三・四再建
神社名	祭神	創立年代	所在地	その他

この境内にある燈籠に

「辛文政四歳巳正月謹重吉旦とあり、又、丹羽郡河北村願主」とあるが、津島社あるいは祭神名が記入されておらず、奉獻が文政時代であったかはつきりしないと伝えられる。

なおこの仲沖部落には、つぎのような伝説があつたと言われるが、今日ではほとんどこれも忘れられている。

伝説「仲沖の神送り」

江戸時代の末期九月三〇日のお神送りの日、郷中へ大きな石がおちて来た。これは何かのたたりであるということで、それ以後神送りを行わない。

神明社	天照大神	不詳	小口字新宮浦三七	
神社名	祭神	創立年代	所在地	その他

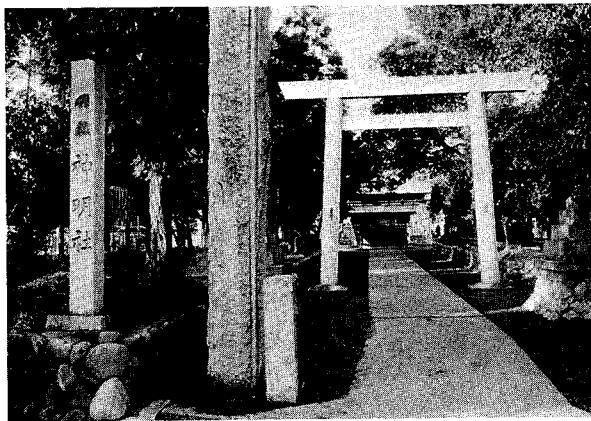


図3-176 神明社 (外坪)

創立年代、由緒いずれも不詳であるが、棟札に天保二年、弘化四年、元治元年にそれぞれ神明社修理とされるされている。

なおこの境内に、大峯山大権現の碑が立てられていたが、故あって大正のはじめに境内の外に移された記録が残っている。

寺 院

古墳時代末期に至り国の体制が漸くとのい、八世紀に入ると仏教文化が大いに普及した。

当地における仏教の伝来は、かなりおくれていたとみななければならぬが、はつきりとした資料は見当たらない。

しかしながら村の発展の経緯から考えれば、平安時代中期、小口^{せぐち}境内に創建されたといわれる万願寺(安和二年、九六九)、定光寺(天仁元年、一一〇八)などにはじまり余野の徳林寺、中小口の妙徳寺など仏教信仰も村人の心の中心として崇敬されると同時に、地域開発の中心となつてきたと考えられる。

現在町内には七寺院が建立されているが、その開基年代はいずれも室町時代末期から江戸時代の中期的のものが多く、概ね村落の成立時代と同時代に考えられている。

一方、宗派は禪宗(臨済宗・曹洞宗)、浄土宗、真宗などあるが、地区別の分布については臨済宗は小口・余

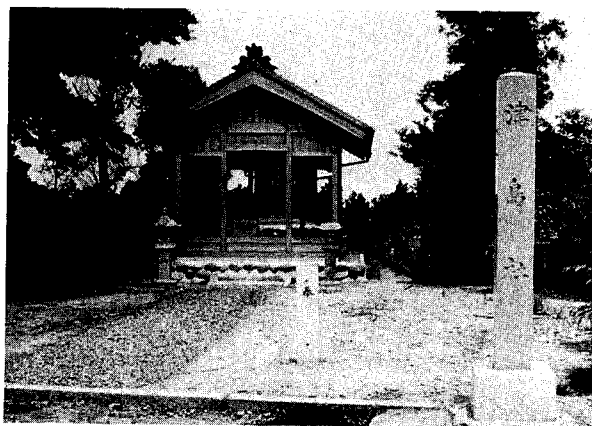


図3-177 津島社(仲沖)

野地域に、曹洞宗は豊田・秋田地域に比較的多く分布し、真宗は全村に亘って分布している。こうした分布は今日では多くの転入者によりやや異なってきた。

また、町内一円に亘って今日では、新しい宗教も普及しそれぞれ信者の増加が目立っている。

檀家の分布については、一部落がすべて一寺の檀家になっている場合（大屋敷字大御堂、浄土真宗江南市古知野泉徳寺）もあり、また部落に寺院がある場合は概ねその寺の檀家になっているのが多いが、新しく開発されたと考えられる部落（新田）においては、他地域からの移住などの都合で檀那寺が何か所にも分かれている。小折新田、替地、大屋敷新田などがこの例であろう。

つぎにキリスト教については、天文一八年（一五四九）に切支丹宗が、九州鹿児島地に入ってきたのにはじまり、織田信長の政策上の保護により、この地方にも伝わったといわれている。丹羽郡においては、岐阜、一宮の宣教師によつて伝わってきたとされているが、一、二の資料や古老の話（下小口字仁所野部落・河北部落など）によると、町内にも少数ではあったが信者があつたという。しかし慶長年代以降の信者に対する迫害や、寛文七年の取締りなどにより絶えたと思われる。

さらに明治時代に入つて、村人の信仰が増加した神道の中では天理教、御嶽教などがある。なかでも天理教は明治三一年ごろ豊田（御供所）で信仰する人ができ、その後替地、余野、小口、大屋敷の部落にも少数であるが信者ができるとともに、教会所を設けて普及につとめた。

今日では余野に立派な教会が設けられ、布教活動に専念されている。

御嶽教は信者がそれぞれ講組をつくり、御嶽へ参詣し崇敬の念の高揚につとめている。

桂林寺	寺院名	曹洞宗	宗派	聖観世音 ほか	本尊	僧桂林	開基	開基年代	豊田字堀尾跡二五	所在地
-----	-----	-----	----	------------	----	-----	----	------	----------	-----

各寺院の沿革 (尾張徇行記より)

計	真宗	臨濟宗	曹洞宗	宗派	寺院数
	一	三	三	七	

表3-158 町内における各宗派別寺院数

なおこのほか町内には、観音堂、薬師堂、阿弥陀堂、大師堂、釋迦堂などが古い時代から祭祀され、多くの村人によって崇敬されて、昔から民間信仰のさかんであったことを物語っている。こうして今日も祖先伝来の仏教を中心に、それぞれ信仰につとめ平和な生活、住みよい町づくりに努力している。



図3-178 桂林寺(豊田)

この寺ははじめ大光山長樂寺と称していたが、永祿二年（一五六九）兵乱により堂が焼失し、正保年中（寛永年中とも）（一六二四〜一六四三）僧龍嶽が再建し、大香山桂林寺と改称した寺で、寺宝に大般若経六百卷（寛政七年、一七九五）、梵鐘などがある。元禄二年（一六二四）鑄造の銘がある。なお本尊は木像で丈は台座上より二尺五寸と伝えられている。

長松寺	曹洞宗	薬師如来 ほか	僧 伝 東	元禄七年（一六九四）	大屋敷字寺東八〇
寺院名	宗 派	本 尊	開 基	開基年代	所 在 地

山号を鶴林山と称し、往古中島郡奥田村（現稻沢市）に建立されていた長松寺を、開基僧伝東が諸国巡行の途、村人の願いによつてこの地に移したと寺の書上にある。また境内にある地藏堂は享保一六年（一七三二）に僧皓受によつて創造されたものであるとされている。

本尊薬師如来像は丈三尺、天然木で聖徳太子作、弘法大師開眼といわれ、寺伝によればこの仏像は、寺院の西を流れる幼川（現五条川）を流れてきたものを拾いあげて祀つたものであるという。

寺宝には涅槃像画幅一間、一六善神画軸幅二尺があり、古書に易地建長松寺記一冊がある。



図3-179 長松寺（大屋敷）

なお、この寺に安置されている鑄鉄地藏尊は(詳細別記)「延命汗かき地藏」といわれ、この地方では名高く文化財に指定されている。
 また境内に祀られている弘法大師、大黒天はいずれも由緒高いものといわれている。

寺院名	宗派	本尊	開基	開基年代	所在地
円応寺	曹洞宗	釋迦如来	円応祥徳居士	宝歴七年(一七五五)	小口字島内四八

この寺は、元来熱田(名古屋市)にあつて留心寺と称していたが、惠尼の宿願により宝歴七年この地に移し、翌宝歴八年当村の住人田山地九右工門(豪士)が父松岩自堅居士追福のために一寺を造立し、「松岩山円応寺」と改号したとされている。

寺宝の十一面觀世音は古来より、難病せんに靈驗ありと伝えられ往古は、近郷からの参詣者もあつたといわれている。

寺院名	宗派	本尊	開基	開基年代	所在地
妙徳寺	臨濟宗	薬師如来	織田遠江守広近	文明七年(一四七五)	小口字宮前一四



図3-180 円 応 寺 (萩 島)

寺記に、当山は箭筈の城主(大久地城主)織田遠江守広近の開基にして、明応元年(一四九二)伊勢守敏定(後大久地城主)が広近の遺命をうけ一寺を創建し、「吉祥山妙徳寺」と改号したとされる。

本尊薬師如来は広近のもっとも崇敬したもので、聖徳太子の作の丈七寸の木座像で、雷除けの薬師とも伝えられ、広近築城の折、城の守護仏として祀ったといわれている。

本堂は、天文一三年(一五四四)に創立されたが、明治二十四年の大震災により倒潰し、その後復旧につとめ今日に至っている。寺宝、古書など特別なものはないと伝えられているが、同寺の庫裡は、城主広近が往古に万好軒と名づけ、隠室として住んでいた建物の遺構であり、その多くは改築されている。

なお記録に明治一九年一月、万好軒(庫裡)の古代建造物保存資金として金百円が内務省から下賜されたとある。

寺院名	宗派	本尊	開基	開基年代	所在地
徳林寺	臨濟宗	聖觀世音 ほか	織田遠江守広近	文明元年(一四六九)	余野字寺前一〇一

この寺は、永仁元年(一二九三)、北面の武士民部貞利の創建によるもので、はじめ「空母山徳蓮寺」と称し、一時衰退していたが、文明元年

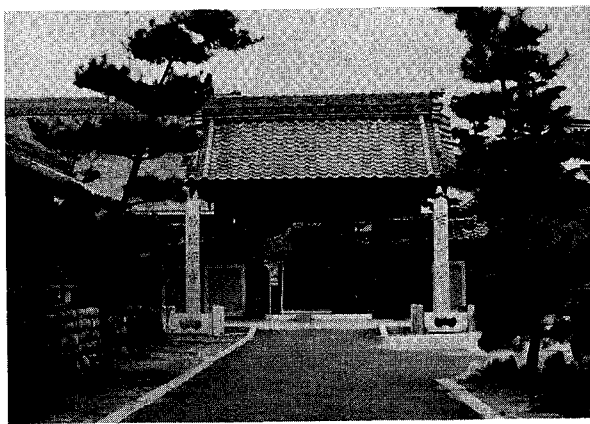


図3-181 妙徳寺(中小口)

(一四六九)大久地城主織田遠江守広近が、これを再興するとともに京都妙心寺の悟溪和尚を請し、大龍山徳林寺と改称した。

天正二年(一五八四)小牧合戦の折、兵乱によつて殿堂及び四塔頭(竜福庵・全徳庵・宝光院・徳重庵)をことごとく焼失し、ただ古方丈と中門がその難をまぬがれたと古書に記録されている。

また別の古記録(丹羽郡誌)によれば、この寺は往時尾濃両国の法源として名高く、延宝四年(一六七六)徳川義直公は狩の折、この古寺を点検し白銀五十枚を賜つたとするされている。

大口村誌には、開山悟溪和尚は東海禪の創始者として高名天下に流布し明応六年(一四九七)御土御門院より、「大興心宗禪師」の号をうけたとある。

なお明治三二年六月、古方丈及び中門に古代建造物保存資金として金百円下賜された。

※塔頭中興再建年代は、竜福庵、文禄元年(一五二九)

全徳庵、元和元年(一六一五)

宝光院、慶長一五年(一六一〇)

徳重庵、一七年(一六一二)



図3-182 徳林寺(余野)

とそれぞれ書上にしるされている。

一方この寺は俗に山姥寺とよばれるが、つぎの伝説によるものである。(詳細伝説欄に記す)

「伝説」昔時この村に小池与八郎なる者あり、その妻、すなわち山姥たり、二宮の山にて福富新蔵のために射殺された。与八郎の子すなわち山姥の生む所であり、のちこの母のためにこの寺をたてて、永く冥福を祈ったという。

この寺には多くの寺宝や、著名な建造物があるなかで薬師如来腹籠(台首)白木像首部は、縦六寸横四寸で作者は不詳とされているが、由緒あるものとして安置されている。また軸物にも開山伝来のものが所蔵されている。

一方境内の建造物では、文明七年九月織田広近によって建立された中門は、室町時代の建造物として当初のまま保存されており、町指定文化財となっている。

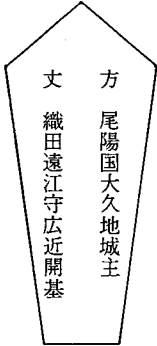
※徳林寺中門……一間半に一間一棟

(明治二五年七月修理)切妻造瓦葺

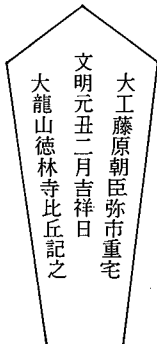
つぎに同寺の古方丈も中門と同様室町時代の建造物であり、方丈棟札にはつぎのようにしるされている。

※方丈棟札

表



裏



また総門は三間に三間半一棟で、明治九年に犬山城の黒門を金二十二円で購入し、移築したものであり、いずれも由緒ある建造物として保存されている。

寺院名	宗派	開基	開基年代	所在地
全徳寺	臨済宗	海甫和尚	不詳	余野字寺前一二四
	聖観世音			

寺の由来書によれば、永仁五年(一二九七)、近郷羽黒村郷士福富大良輔創立にして、全徳坊と称し文明元年(一四六九)、本寺徳林寺第二世僧寿嶽これを再興して全徳庵と改めた。その後天正二年(一五八四)兵火により焼失したが、慶長三年(一五九八)に至り、初代住職海甫智公によつて再興され、十世大休和尚の時代に本寺徳林寺より独立すると、大口村誌にはしるされている。一方、尾張徇行記には、この寺草創年歴は知れず、中興再建は元和元年(一六一五)としるされている。

山号を福新山とよんでいる。

寺院名	宗派	開基	開基年代	所在地
本光寺	真宗	不詳	不詳	外坪一四五五
	本尊			
	阿弥陀如来			



図3-183 全徳寺(余野)

大口村誌によれば、往古は外坪本郷にあり天台宗であり、創立は天正年中（一五七三〜一五九一）とある。真宗大谷派に属し、天保二年（一八三二）火災により寺宝を焼失した。

一方、尾張徇行記によれば、この寺は寛文九年（一六六九）僧善昌の開基によるもので、元来は本田所（本郷の意）にあつたが、元禄三年（一六九〇）に新田（いまの所在地か）に移したとされるされている。

名称	宗派	本尊	開山	創立年代	所在地
妙智寺	臨濟宗	土面觀世音	研宗真和尚	寛政九年（一七九七）	河北一三七

この堂の由来について大口村誌にはつぎのようにしるされている。

往時扶桑村斉藤より、仙田藤右工門という人がキリシタンの圧迫をのがれ河北の地へ移り、ここに居をかまえた。その後、この人は拳母川（現豊田市地内）の川普請に出たがこれに失敗し、客死したということでこの靈をとむらうため、扶桑村高雄覚王寺住職に請いこれを創立したとあり、覚王寺の受持である。現在この堂は、「観音山妙智寺」と称し、昭和一七年に独立した寺となった。

一方、尾張徇行記にはこの堂は、寛政六年（一七九四）に近郷二ノ宮村（現楽田村地内）常福寺控の薬師堂号を譲りう



図3-184 本光寺(松山)

け、堂を創建し観音を安置したとある。(覺王寺書上)

陽学院	名称	真言宗	宗派	藥師如来	本尊	陽学院實空	開基・開山	不詳	創立年代	小口字下島東一	所在地
-----	----	-----	----	------	----	-------	-------	----	------	---------	-----

「由来」ここに祀られる本尊は、大久地城主織田広近が築城の折三体の藥師如来を祀り、守護神とした内の一体であるといわれるが、その経緯について詳細を知ることができない。

この本尊藥師如来は、木造の座像で高さ約一尺といわれている。なお古書に文明七年(一四七五)陽学院と改称とあるからそれ以前に創立されたことはたしかである。

釋迦堂	名称	浄土宗	宗派	釋迦石の像	本尊	泰誓安窓貞穩法尼	開基	天保七年(一八三六)	創立年代	秋田字東郷前一	所在地
-----	----	-----	----	-------	----	----------	----	------------	------	---------	-----

「由来」天保七年替地全戸の寺として創立されたもので、宗派は部落に禪宗、真宗の二派があるため、これらのい

ずれにも関係のない浄土宗としたといわれている。なお本尊は、往昔屋外にあったがその後堂をつくり祀ったものである。



図3-185 妙智寺(河北)

名称	宗派	本尊	開基	開山	創立年代	所在地
教善寺	真宗	阿弥陀如来	平子佐工門	見真大師	不詳	外坪三四〇

この説教所は、明治四三年に外坪^{とらば}本郷地内にあつたものを現在地に移転したと記録されている。

創立年代は不詳である。

名称	宗派	本尊	開山	創立年代	所在地
薬師堂	曹洞宗	薬師如来	木村良源	天正一年(一五八三)	小口字郷中六一

この堂の由来はあきらかでないが、明治初年までは田福山福生寺といつて、現在のの上小口白山神社の境内にあつたが、その後現在の地に移し寺号を薬師堂と改めたといわれる。また本尊薬師如来像は、往昔大久地城主織田広近公の崇敬したものであつたといわれ、大久地村三薬師の一体として靈験高く、村人は日々崇拜したと伝えられている。

本尊薬師如来は、木造寄木造の座像で室町期の作と推定され、像高約五八センチメートルで由緒ある木仏として町文化財に指定されている。



図3-186 教善寺(外坪市)



図3-187 薬師堂(上小口)

またこの薬師堂には、銅造千体地藏尊(県指定文化財)、や聖徳太子像(県指定文化財)、聖観音座像、釋迦如来立像(いずれも町指定文化財)など多くの貴重な文化財が保存されている。

第二節 民間信仰

概況

多くの人が農耕を生業として生活をいとなんできた本町においては、昔から農業にかんする信仰が、かなり多く行われてきた。

すなわち各部落に、あるいは個人の家に祀られるそれぞれの祭神を中心に、農作物の豊穰、家運の隆盛を祈り、あわせて祖先への崇敬の心を表わした。

がややうすらぎ、往昔の信仰より発生した行事はしだいに消失し、あるいはその内容が大きく変化したといえよう。本町内で行われてきたおもな信仰行事について、古老の話をもとに列記するとつぎのようである。

表3-159 民間信仰の種類

屋敷神信仰	御嶽信仰	庚申信仰
稲荷信仰	観音信仰	地藏信仰
弘法信仰	山ノ神信仰・田ノ神信仰	金比羅信仰
秋葉信仰	津島信仰	その他(水神様自然物)信仰

これらの信仰はほとんどが「講」を中心に行われてきたのであるが、大戦の勃発とともに一時大部分が消滅した。しかし終戦後多くの講が復活するとともに、一般の人々の間には神仏に対する信仰の念が増え、祭事もしだいに多くなってきた。

また民間信仰と深いつながりをもつ石仏は、町内にかなり多く造立されているが、その年代は一定でなく、多くは江戸時代の中頃から明治時代の中頃(一、七〇〇〜一、九〇〇)であり、地藏・観音・釈迦・弘法大師などが多く信仰の高かったことを示している。

伊勢詣り
伊勢詣りは、昔の人々にとっては大きな夢であり、今日のようにだれでも簡単にできなかった。このため、近所同志で講組をつくり代参が行われた。

代参者は、参詣を終え村へ帰ると講組の人を集めて土産話をきかせ、お札をわけたといわれている。こうした講組は町内では昭和一〇年ごろまではあったが、今日では個人による参拝が容易にできるようになり、いずれも廃止されてしまった。